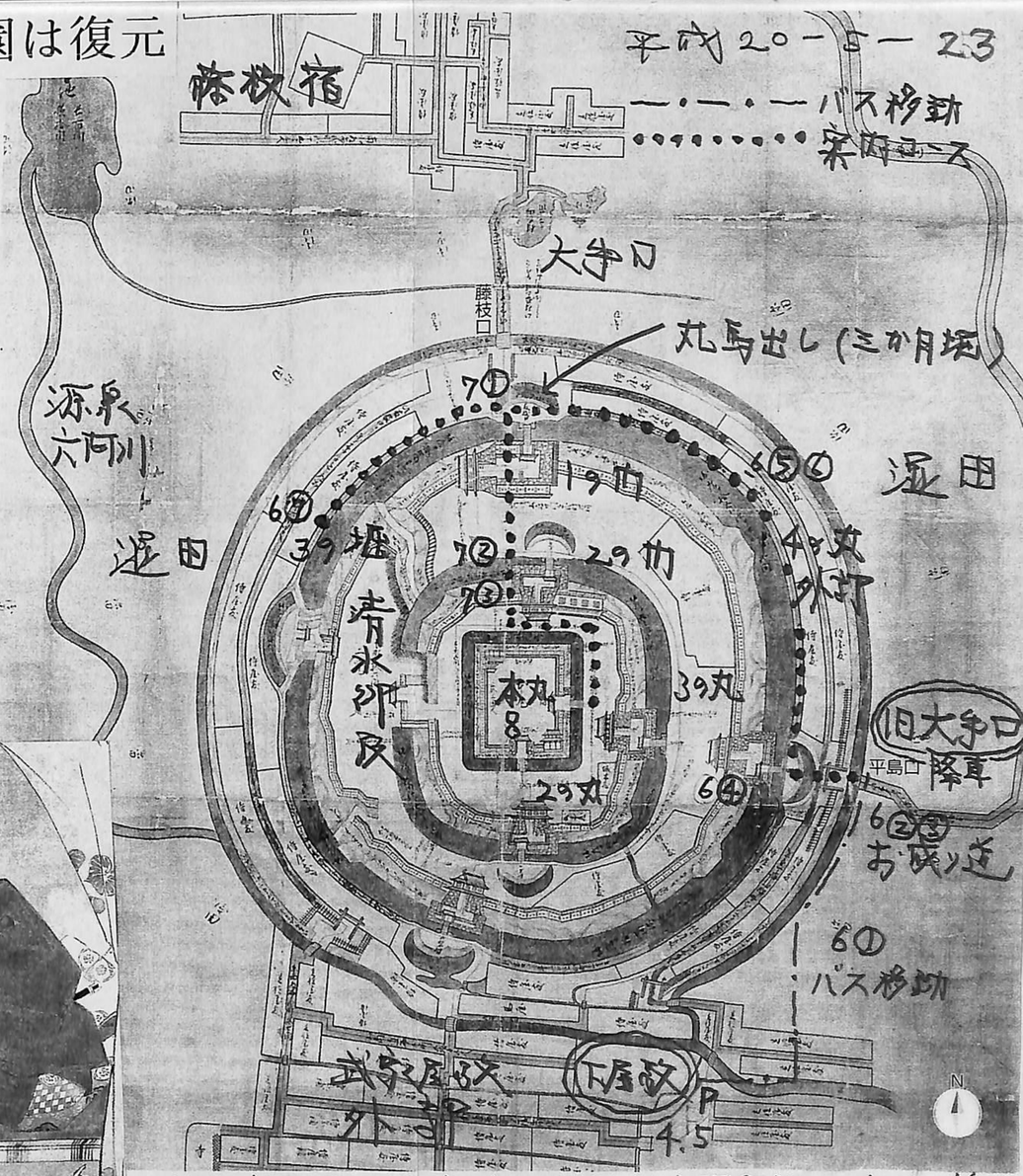
今から500年ほど前、今川氏の命令を受けた地域の有力者・一色氏が屋敷を拡大して城としたのが始まりと伝えられます。その後、駿河を領地とした武田氏により三之曲輪までが整備され、江戸時代初めには円形の堀が増設されて直径約600mの丸い城が完成しました。現在、西益津小学校のある場所が本丸跡で、西益津中学校の場所に藩主の屋敷があり、政治を行う場所である御殿が建っていました。江戸時代には4万石ほどの譜代大名が藩主となり志太平野の村々を治めていました。しかし、明治維新で田中城は廃城になり、城跡も民間に払い下げになりました。

本丸はいま学舎、下屋敷庭園は復元

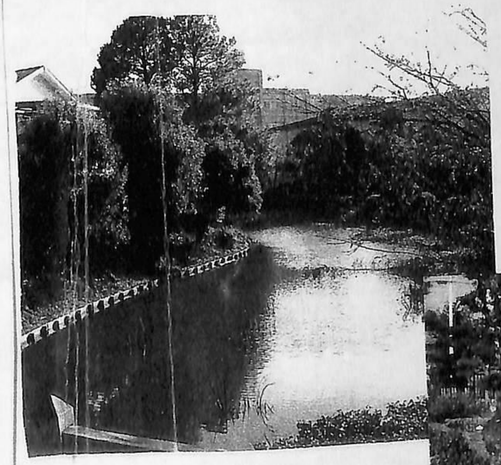
←徳川家康ゆかり御殿・本丸跡

東照大権現像（だいごんげん）→
狩野探幽筆　重文　輪王寺蔵
家康の側近となった禅僧以心崇伝（いしんすうでん）の日記によると、家康は「1周忌が済んだら日光山にお堂を建てて勧請せよ、関八州の鎮守となろう」と遺言したという。死後、「東照大権現」の神号が贈られ、日光には壮麗な東照宮が建立された。

徳川家康像



↑江戸後期の田中城絵図　↓下屋敷の本丸格



←29の丸堀

本丸跡↓

城を歩く会5月定例会　ご案内資料②

田中城と沼津城を歩く

山岸弘明

田中城＝
ドロ田のまん中、4重の水濠に囲まれた丸い城
たんぼは濠、丸い城に死角はない

1）　今川、武田、豊臣、徳川と変遷 —— はじめに田中城の歴史から

① 室町時代（15世紀ころ）今川方の地元有力者・一色氏が築城（徳一色城）。
② 元亀元年（1570）武田信玄の西駿河攻めで降伏、武田氏の重臣馬場美濃守が甲州流に改修。
③ 武田×徳川攻防の地（天正3年（1575）長篠の戦い～武田氏滅亡まで）
(1)天正3年長篠の戦いに敗れた武田氏が甲斐に退去すると、家康は掛川城の城兵をもって武田氏の諏訪原城を攻め落とし、田中城など西駿河の武田勢を分断した。
(2)天正6年家康は横須賀城を築いて高天神城（9年落城）と田中城を攻撃。
(3)天正10年織田、徳川連合軍が甲斐、駿河に侵攻、田中城は依田信蕃らが抗戦したが、穴山信君の裏切りで孤立し、3月1日に降伏開城した。
④ 武田家滅亡後、駿府を居城とした徳川家康が鷹狩りの時に使用する「田中御殿」を建造。
⑤ 江戸時代は酒井、松平、水野、松平、北条、西尾……と譜代大名12家21氏が変遷、後期は本多4万石となるが明治維新後、駿府徳川宗家所領に組み込まれた。
(1)歴代城主は加増や幕府の要職につく人が多かったので「出世城」とも呼ばれた。
(2)最後の城主、本多正もりは徳川家達の駿府70万石の成立で安房長尾4万石に移され、明治3年隠居、正憲の時廃藩置県となった。

（発症、駿府城で）

家康ゆかりの田中御殿　ここで家康がタイのてんぷらを食べすぎて死んだ

2） 死角がなく守りやすい湿田の中の丸い城 —— 特異の縄張り平城、円郭式

① 周囲を湿地帯に囲まれた平城
(1)戦国時代の平城は珍しい。周囲を湿地帯（ドロ田堀）に囲まれた微高地を活用。丘城といえないこともない。微高地上に３の丸まで、江戸時代はじめに外郭を広げた。

② ４重の水濠＝中央の小さな方形の本丸を中心に円形の２の丸、３の丸、外曲輪（士屋敷）からなる。
(1)本丸は極端に小さい。方形館は中世土豪の居館を連想させる。
(2)典型的円郭式縄張り＝めずらしい同心円状の城、武田信玄の甲州流とされたが、確証はなくそれより早い今川時代説も有力。
(3)丸い城は死角がなく、最小人数で守れる利点がある。

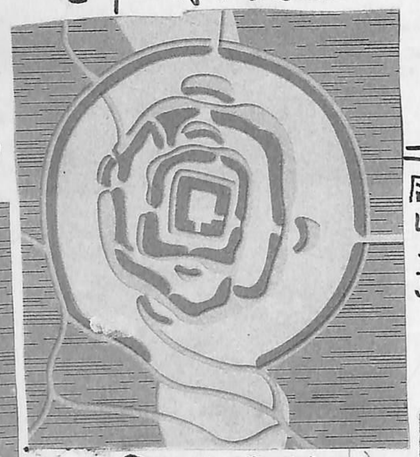
③ 天守閣のない部分石垣の城＝お亭（本丸櫓＝後出）、２重角櫓各１基、櫓門６基で天守閣はない。城門のある升形に石垣、ほかは土塁を回した質素な造り。

④ 甲州流丸馬出し＝主要虎口６か所に三日月堀の丸馬出しを配している。武田の城の典型。
(1)もっとも小さい新宿２の門三日月堀の一部が現存。今回は見学しない。

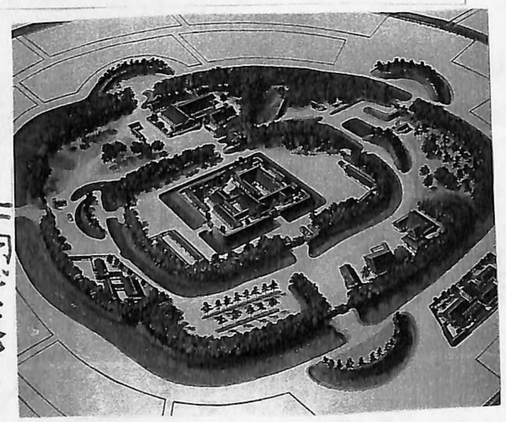
⑤ 近世は駿府城にいた徳川家康の鷹狩り御成御殿「田中御殿」から始まる。
(1)秀忠、家光まで利用。焼失した中期以降、本丸は空き地、庭園か。
(2)城主は２の丸御殿（御館）で起居。現存図面は小城とは思えない豪華な書院建築を窺わせる。
(3)万延元年築造の２の丸御殿は維新後小学校校舎となり火災、残った玄関部分も昭和２年焼失。

⑥ 江戸の防御拠点・駿府城の支城。
(1)江戸幕府直轄領であった駿府城の支城で、中堅譜代大名が封じられた。

⑦ 東海道藤枝宿＝宿場町として繁栄
(1)大手口を藤枝宿側に配置したが、城周辺は湿田で、城下町が形成されることはなかった。

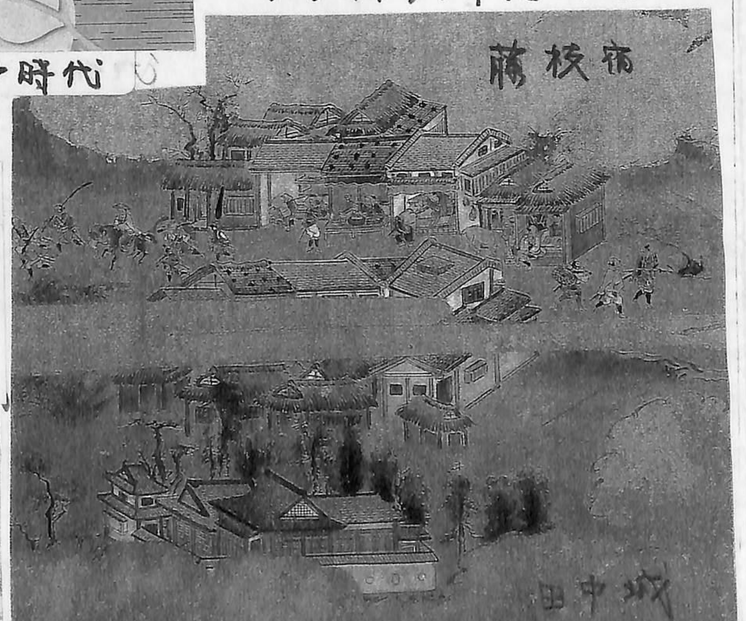


田中城の変遷



一周じこう

江戸初期の本丸周辺



→藤枝宿絵図
↓東海道藤枝宿

近世の城主

□田中城
酒井忠利―（駿府藩領・徳川頼宣）―（幕府領）―（駿府藩領・徳川忠長）―（幕府領）―松平（桜井）忠重―水野忠善―松平（藤井）忠晴―北条氏重―西尾忠昭―忠成―酒井忠能―土屋政直―太田資直―資晴―内藤弐信―土岐頼殷―頼稔―本多正矩―正珍―正供―正温―正意―正寛―正訥

3） 御たんつまり候て、御わずらい成され候 —— 田中御殿で徳川家康が発病

① 元和元年（1615）、大坂の陣で豊臣家を滅亡させた家康は、将軍秀忠を江戸においたが、自らは駿府城にあって大御所２元政治を展開した。
(1)大御所政治の中心は本多正純を筆頭とした新参譜代で、将軍政治は正純の父で後見人でもある本多正信を中心に大久保忠隣、酒井忠世、土井利勝ら秀忠側近グループであった。

② 元和２年１月21日田中で鷹狩り田中城に泊まる。その夜、丑の刻（午前２時ころ）にわかに発病、原因はタイのてんぷらの食べすぎとされる。
(1)御たんつまり候て、御わずらい成され候（京都所司代あて崇伝書状）
たんえん御胸にようたいしてはなはだ御危急なり（寛政譜）
(2)病状はお付き医師の投薬でいったん持ち直し、25日駿府城に戻る。
(3)体調は一進一退、４月に入ると再び悪化、枕元に本多正純、天海らを呼んで遺命を伝える。

② ４月17日巳の刻（午前10時ころ）逝去。75歳。
(1)同日遺体は久能山に移され、秀忠ら迎え22日葬儀
(2)法名は「一品大和国安国院殿徳蓮社崇誉道和大居士」
(3)「正一位」「東照大権現」を勅賜される。神号は「東に照りおわす、神々の仮のお姿」という。

③ 元和３年、遺体を久能山から日光へ移す。小田原、川越をへて４月４日日光到着。
(1)日光が選ばれたのは家康の遺言「関八州の鎮護とならん」から。天海のねつ造説が強い。

4） 廃城130余年、よみがえった下屋敷庭園 —— プロローグ（滞在２５分＝　時　分出発）

① 下屋敷駐車場で降車。トイレ。

② 平成７年に調査、復元された下屋敷庭園。
(1)明治６年廃城。跡地や建物は競売で民間に払い下げられ、下屋敷も田畑や住宅地とされた。
(2)昭和62年「田中城保存整備事業」がスタート、平成７年発掘調査をへて下屋敷（大名庭園）を復元、関連建造物の移築、駐車場の整備などが行われた。

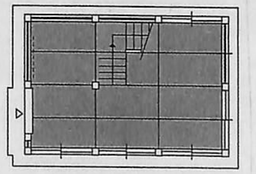
③ 下屋敷泉水＝かつて外堀の一つである六間川を迂回させた。復元池泉は新しい六間川から取水

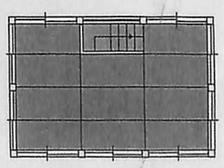
④ 飢饉に備えた郷蔵（天保14年建造、市指定文化財＝現存は珍しい）
(1)長楽寺村郷蔵＝老中・松平定信の指示ではじまった年貢米や飢饉非常米の備蓄倉庫

⑤ 伝田中藩家老家茶室（江戸後期建造、市指定文化財）
(1)しょうしゃな数寄屋建築で４畳半の茶室と６畳の待合からなる。

⑥ 城内仲間部屋・厩（安政６年建造、市指定文化財）
(1)明治以降、農家の長屋門付属納屋として使用されていた。
(2)屋根瓦に本多家家紋、棟札にも注目。

→本丸櫓





→厩舎

下屋敷庭園

5）　本丸→民家→城地へ。数奇な運命をへたお亭 —— 本丸櫓（市指定文化財）

①　亭（ちん）は庭園に眺望のため設けられた風雅な２階作り建物をいう。２階の開放した部屋から本丸庭園を見下ろした。城主が休息や月見、七夕などに利用した。

⑴本丸土塁に石垣を積んで建てられていたという。

⑵類似は佐倉城本丸御成御殿の銅櫓。江戸城吹上の秀忠御殿を土井利勝が拝領したとされる。

②　建築年代不詳、江戸後期か。本丸庭園の亭建築としては質素だが現存は珍しい。

⑴屋根寄せ棟？造り、江戸後期は杉皮葺きで民家使用時は桟瓦、現在銅板葺き、２間×３間、２階はほぼ全面窓だが高欄はない（あったかも）。真かべ白漆喰、１階は下見板張り、畳敷。

⑵明治維新後、民家に移築され、下屋敷復元にあたり城地に復帰した。

6）　家康が通った御成り道 —— 平島御門から丸い城を歩く（見学６０分＝　　時　　分出発）

①　下屋敷から地方道焼津－藤枝線でバス移動、３分ほどで平島木戸跡に到着。

⑴道路の円形まがりに注目。丸い城の外堀跡を道路にしている。

②　御成り街道＝直角の道が御成り街道。徳川家康が御成りの時に使用した道。

⑴東海道藤枝宿手前、葉梨川にかかる八幡橋から平島木戸に通じる1.5㎞ほどの道。

⑵藤枝宿側に大手口が出来るまでの田中城の正式ルート。

③　平島木戸碑＝道路（外濠）を挟んで東が城外で湿田、西は４の丸（外郭）で城内、武家屋敷地。

⑴平島木戸杭＝御成り街道に通じる木戸で外堀が造られる前までは田中城の正門に入る重要な木戸であった。　⑵冠木門で番所が置かれた。

④　平島１の門跡＝丸馬出し（三日月濠）、３の濠、不明門、石垣升形、渡櫓門で構成。

⑴不明門は普段閉鎖し、戦時必要に応じて架橋できるようになっている。

⑵部分石垣と周辺土塁が現存。石垣残欠を見学、土塁に登る。意外と広い。

⑤　３の濠跡を大手１の門へ歩く。途中所々に土塁。水濠の窪みも。

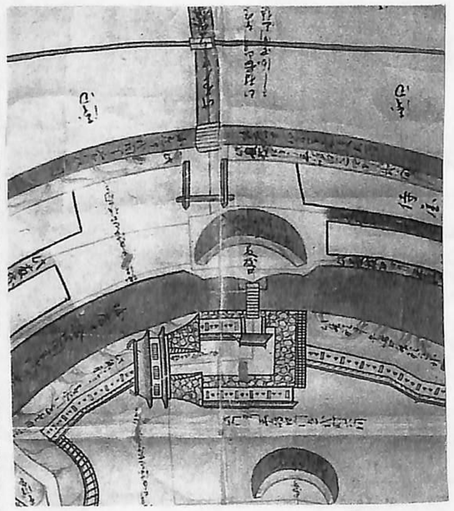
⑥　家老屋敷跡、玉薬製造所跡、藩校・日知館跡、太鼓櫓土塁

⑦　現存３の堀（水濠）と土塁（藤枝市指定史跡）＝見どころの１つ。武家屋敷の低い石垣も。

⑴史跡看板＝３の堀は本丸から３重目の堀で幅は18～27m、深さは1.7～4.2m、土塁の高さは水面からおよそ５ｍです。堀の北側からは今でもきれいな清水が湧き出ています

平島木戸

↓３の堀と土塁　↑平島１の門跡



↑大手１の門、↓２の堀

7）　２の濠と木橋に城遺構を感じる —— 大手門から本丸めざす

①　大手１の門跡＝東海道藤枝宿から入る中後期の大手門。丸馬出し、３の堀、石垣升形、渡櫓門、太鼓櫓。大手門の中は３の丸で城主の住む清水御殿、蔵、家老屋敷などがあった。

⑴史跡杭＝田中城で一番大きな48坪ほどの升形門で騎馬武者なら48騎収容できた

⑵太鼓櫓＝土壇と周辺土塁が現存。太鼓櫓は時報と藩士招集などに。

⑶連続する三日月堀（丸馬出し）と水濠＝厳しい正門の守り。

②　現存２の濠＝木橋から水濠を望む。この堀も丸い。

③　大手２の門跡＝木橋（現状は赤い模擬橋）、石垣升形、渡櫓門。

⑴２の濠、２の門を越えると２の丸、２の丸は帯曲輪。

⑵西益津小学校うら門＝東京の学習院正門をまねる

8）　徳川家康の田中御殿と城主の清水御殿はいま学舎に —— 西益津小学校と西益津中学校

１２時ころ～２０分くらい校内見学（０５４－６４１－０４００）学童トイレ借用依頼

①　丸い城の中心は四角い方形館＝中世土豪居館から発達したことを物語っている。

②　本丸と本丸水濠跡は市立西益津小学校、２の丸と３の丸を続けた清水御殿跡は西益津中学校に。

⑴田中城をイメージした庭園＝天守閣など一部の不整合が残念。

⑵田中城、田中藩の歴史、年表

⑶田中城大手２の門付近より出土の石垣石＝堀に面した石積み最下段の基礎に使われていたものの一つです。

③　寛永10年ころ「駿州田中城古図」、ほぼ同年代とされる「駿河田中御殿の指図」と復元図参照＝縄張りは素朴な戦国期の姿だが、殿舎は豪華な書院建築になっている。

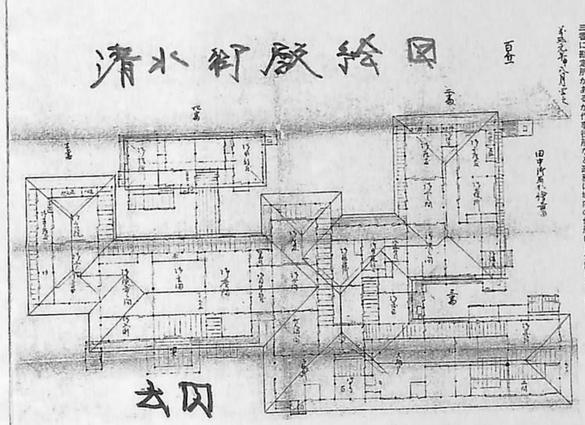
⑴本丸は46×56mの方形、周囲を水濠と土塁、部分石垣で囲み、虎口は東側（大手カ）、南側（からめ手カ）の２か所。建物は車寄せ玄関、上段の間、広間、書院などが窺える。

⑵下屋敷にあったお亭も土塁の石垣上にみえる。

⑶「田中御殿」を現地で考察する。

④　城周辺に、丸馬出し（三日月濠）のはっきりみえる窪み、伝移築城門、家康由来の馬上の清水、家康手植えみかん、船だまり跡などの史跡があるが今回はご案内しません。

⑤　バスは一路掛川城をめざします。



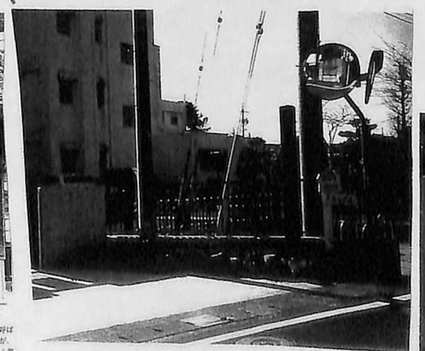
田中御屋敷絵図　藤枝市郷土資料館

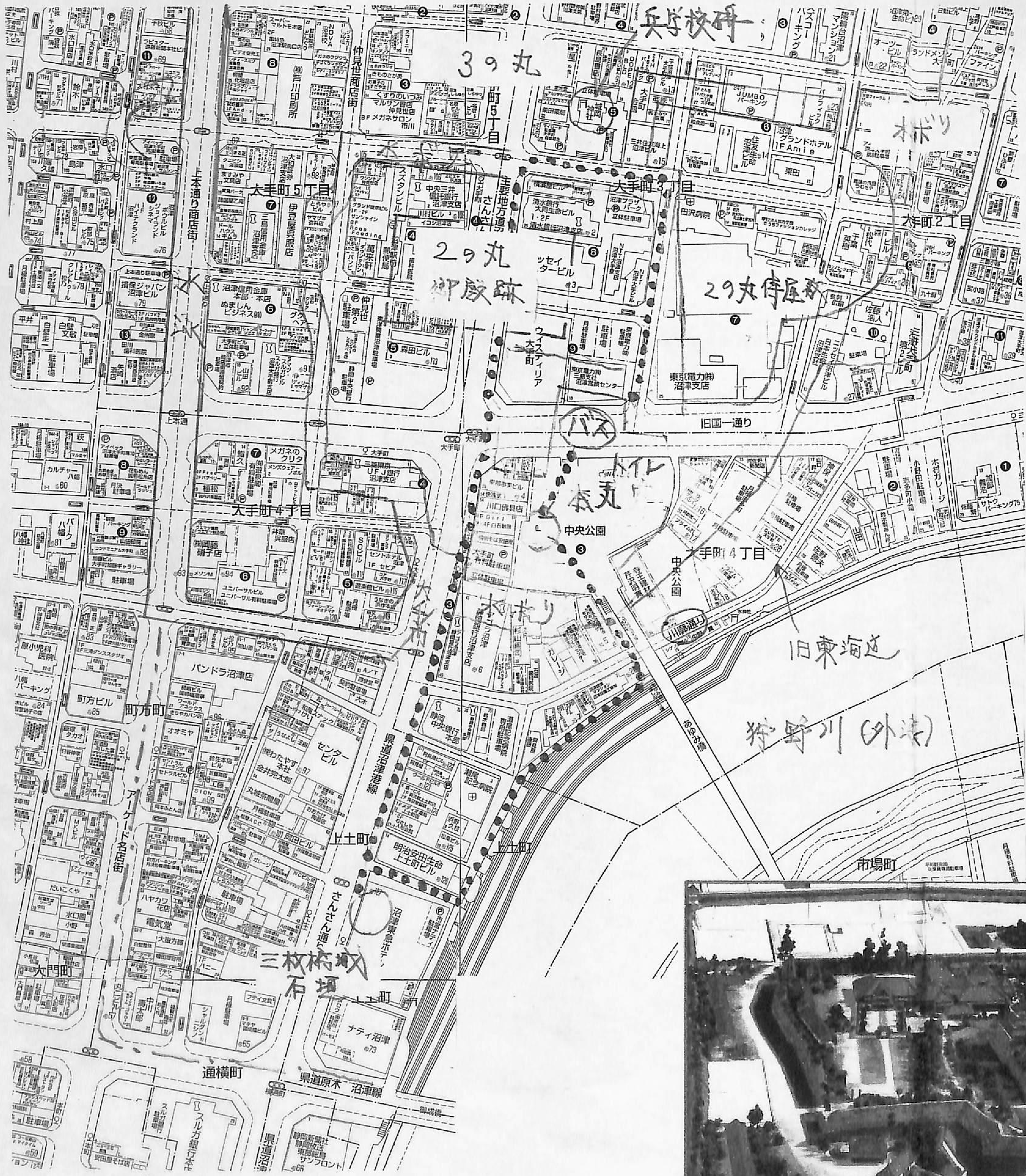
「万延元年４月末ごろ」と注記のある清水御殿の絵図である。御殿は安政元（一八五四）年の地震で倒壊していたため、再建後の絵図と考えられる。建物は寄せ棟造りの建物で、城主の居所であり、藩主の公館、藩内の政務を行う役所という。藩主の公館部分は右上の二棟にあり、座敷や湯殿などが記されている。三棟に勤番所があるが作事役所など政務は城内の施設にも分散されていた。

↑イメージ庭園　↓本丸跡

↓玄関古写真　↓本丸史跡杭

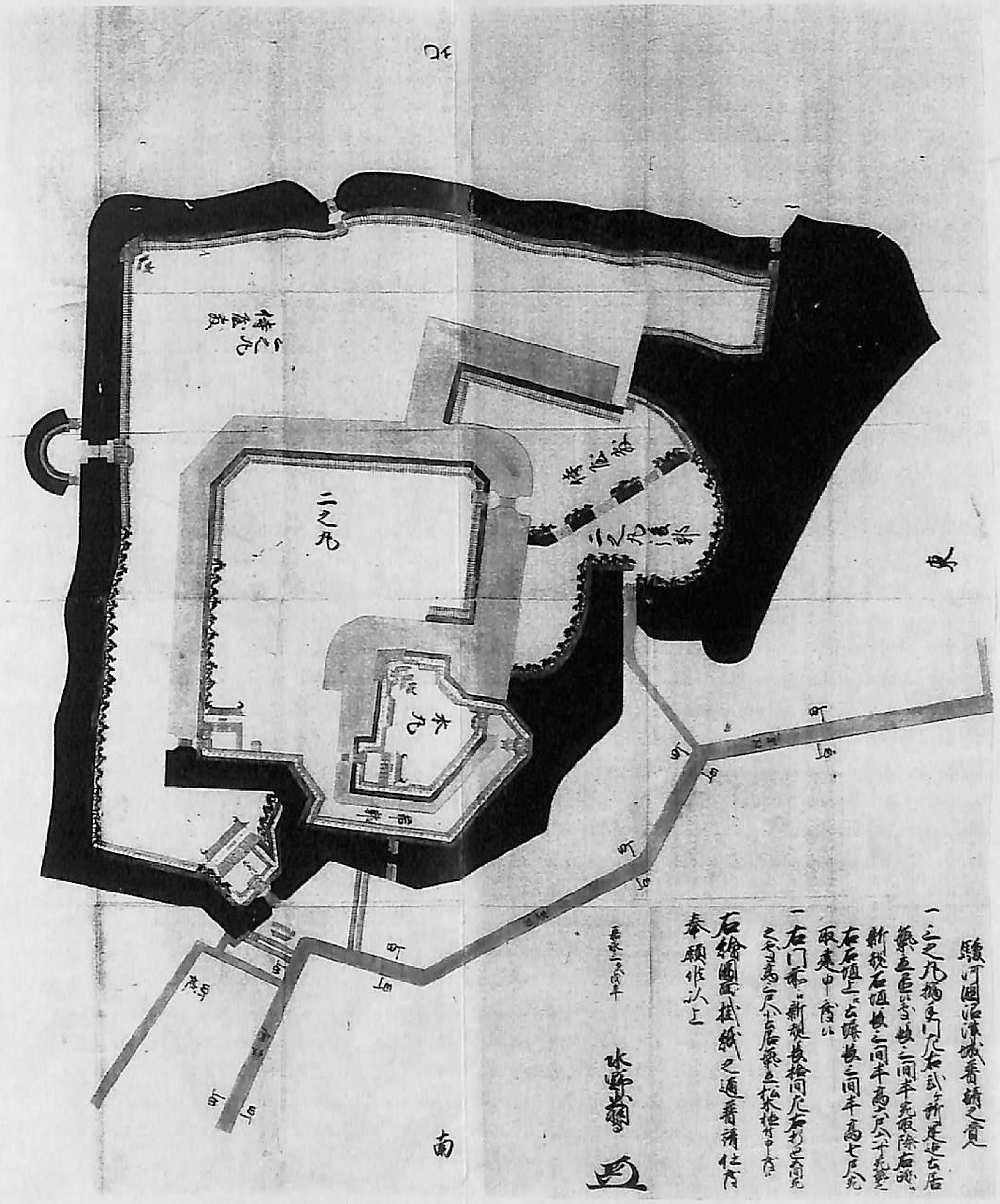
二の丸御殿玄関の古写真（田中城址館）幕「御殿形（御館）」と呼ばれていたこの丸御殿は、安政元年（1854）の駿海地震で倒壊したが、財政困窮により再建は遅れた。万延元年（1860）８月にようやく新





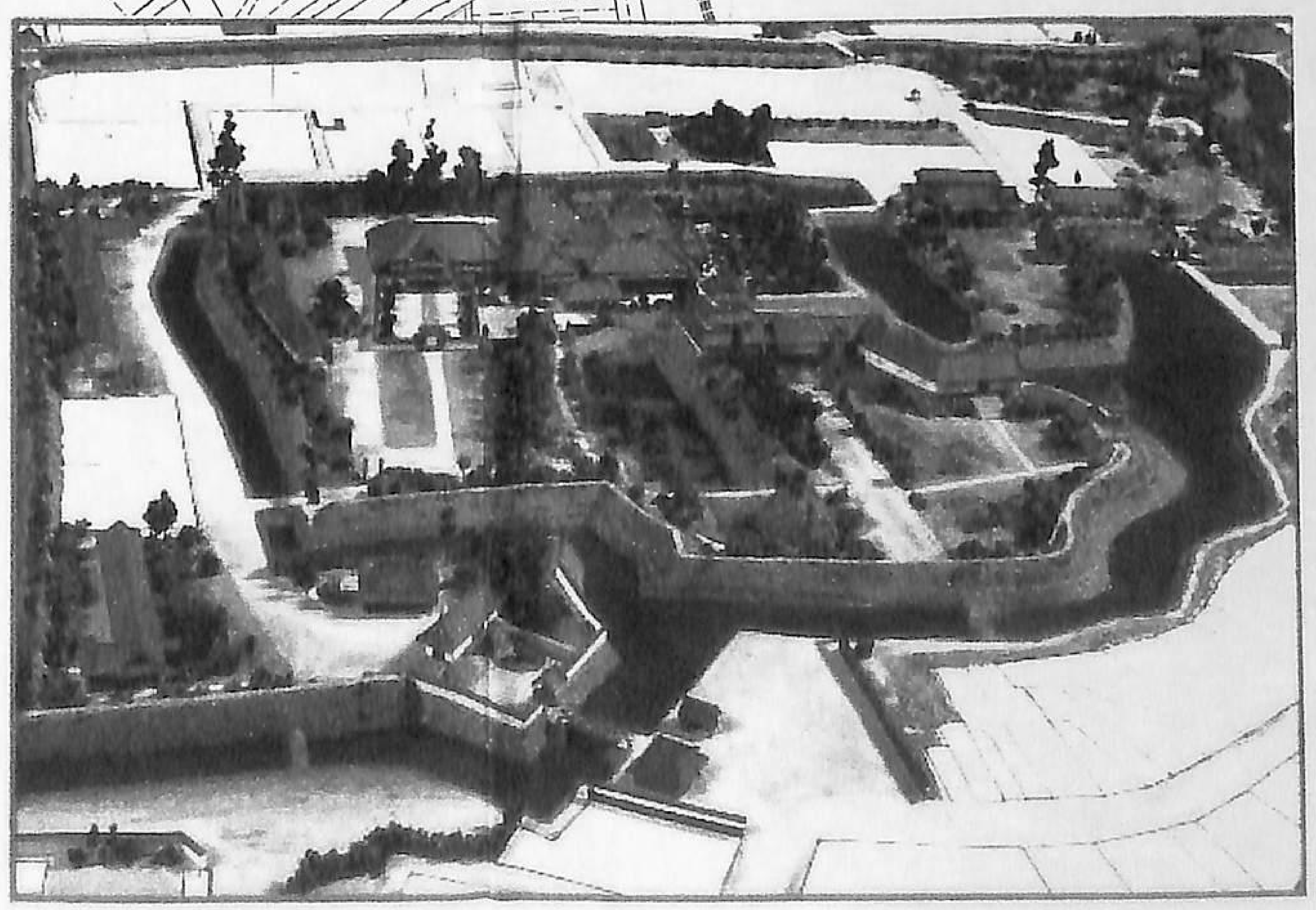
……案内コース

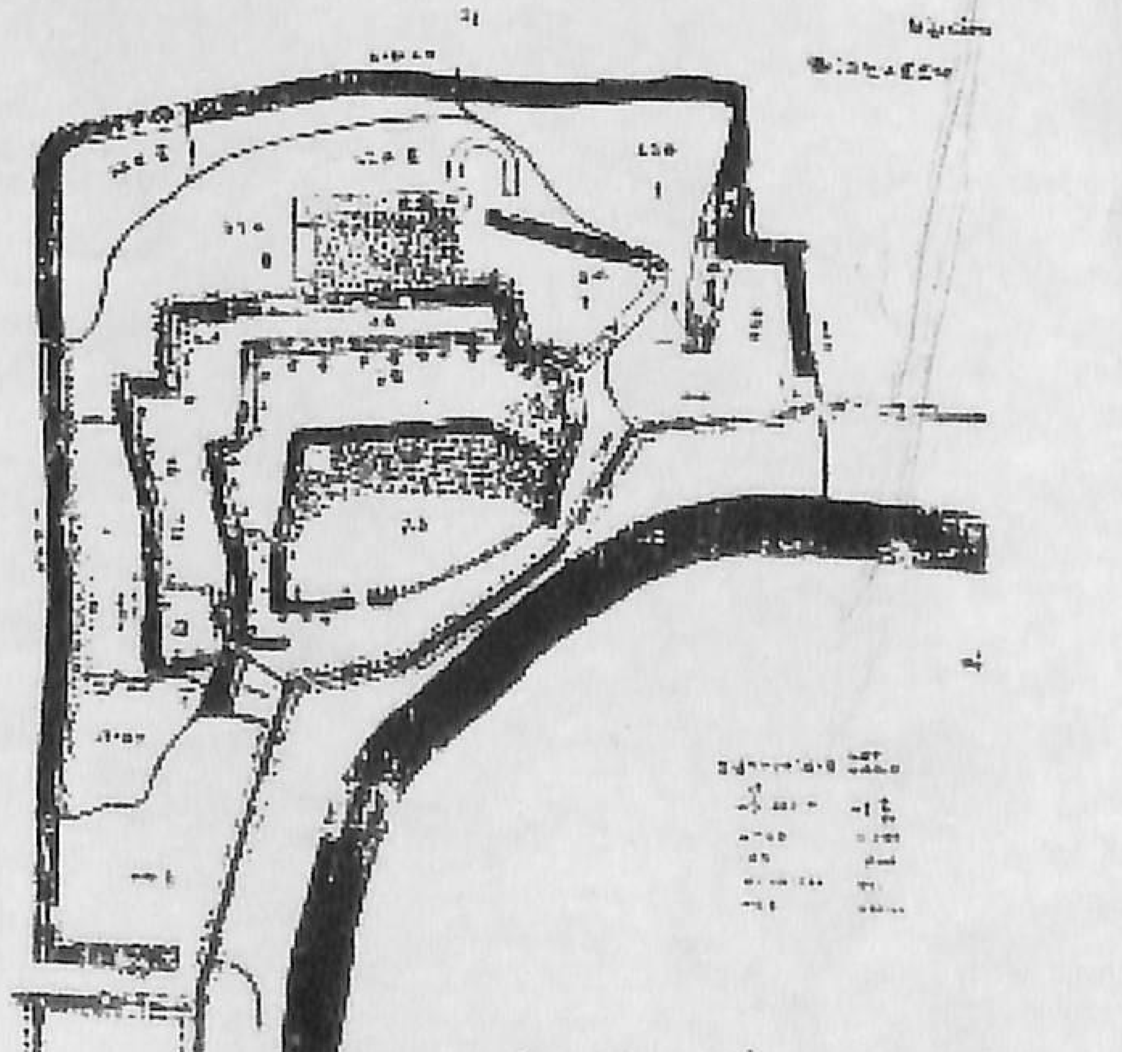
沼津城 ご案内時間６０分



幕末期ノ沼津城絵図

沼津城模型 →





三枚橋城図

沼津城＝消えた城に面影を探る

1）　はじめに三枚橋城ありき＝武田勝頼が築いた海賊城

① 信玄没後の武田家は長篠の戦いに大敗、西に織田、徳川、東に小田原北条に攻められ孤立する。駿河沼津港は武田家にとって本国甲斐と駿河湾をつなぐ軍事拠点。天正５年、鹿野川の駿河湾河口近くに築城。相模湾をにらんだ海軍基地（海賊城）で、橋名から三枚橋城と呼ばれた。

② 城は東西、南北それぞれおよそ400mの平城、狩野川を東の外堀に、その川水を利用して４重の水濠と石垣を巡らせた。

③ 築城５年の天正10年２月北条氏に攻められ落城、３月には勝頼が天目山で敗れ武田家は滅亡する。三枚橋城はいったん北条方となるが、直後に徳川家康が奪う。目まぐるしく変遷。

2）　猛者・大久保忠佐居城も慶長後期に廃城

① 天正18年小田原攻略の戦功行賞で家康は関東移封、かわって秀吉の臣中村氏の居城となるが、関が原の合戦で家康が勝利すると、「蟹江の７本槍」歴戦の猛者・大久保忠佐を２万石で据える。忠佐は慶長18年死去、直前に嗣子忠兼も父に先だったので無嗣断絶、沼津城は破却された。

② 慶長からの150年は徳川頼宣、徳川忠長領、幕府直轄領と変遷。三枚橋城は破城されたとはいえ、石垣や水濠はほぼ無傷のまま残った。

3）　近世沼津城＝廃城遺構を側用人水野５万石居城として再建

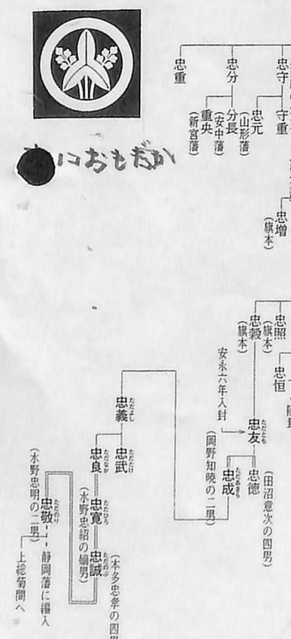
① 江戸後期の安永６年（1777）、10代将軍家治の側用人でのちに老中首座に栄進することになる水野出羽守忠友が２万石をえて沼津城を再建。

② 水野家は徳川家康の生母、お大の生家であったが松本７万石の時江戸城中で刃傷事件を起こして断絶、おじ忠穀が７千石で家名を相続していた。その子忠友が田沼意次の信任をえて側用人から老中兼勝手掛（大蔵大臣）へ、その権勢は頂点に達した。しかし田沼の失脚で失速、天明８年に罷免された。

③ 次の忠成の時11代将軍家斉の側用人から老中首座にすすみ５万石に加増。以後の歴代藩主も側用人、老中を勤めた。明治元年、徳川宗家の静岡移封にともない上総菊間（市原市）に転封となった。

④ 近世沼津城は旧三枚橋城の中核部分およそ７割程度を利用、狩野川寄りに本丸、その北側に２の丸、３の丸を配した梯郭式縄張りで水濠に石垣を持った本格的平城であった。天守閣相当の本丸三重櫓のほか、２の丸に二重櫓、３の丸に太鼓櫓があった。

⑤ 明治はじめの静岡藩兵学校をへた明治６年廃城、旧藩主御殿や櫓などの建造物は払い下げ、あるいは取り壊された。明治22年東海道線の開通にともない城跡北沿いに沼津駅を設置し、城内を東西に分断して石垣と水濠を破壊した。以後数度の大火、太平洋戦争などで城遺構はほぼ完全になくなった。



沼津城→

←本丸跡

↑本丸跡

←船だま

旧東海道→

←廃野

3）　三枚橋城と沼津城本丸跡＝武田、北条、徳川、豊臣、徳川と変わった要衝の城

① 中央公園前で降車。公園が旧本丸にあたる。三枚橋城当時は本丸御殿があり大久保忠佐らの歴代城主が居住した。近世水野藩時代は城主が２の丸に居住、みるべき建物はなく、沼津兵学校時代は生徒のの寄宿舎とされた。

② 公園中央に本丸跡碑と三枚橋城石垣の石、解説の城図で往時を忍ぶ。

③ 天守閣相当３重櫓跡、石垣、水濠、本丸大手門

④ 旧三枚橋城石垣＝ホテル建設現場で発掘。かつて数倍の高さがあった。写真参照。

4）　旧東海道川廓通りと狩野川＝武田海軍軍港から物資輸送拠点港へ、いま遊覧船がめぐる

① 川廓通り＝東海道旧道。石畳を復元、街道のイメージが残る。江戸時代はじめ沼津城廃城にともない城を迂回した街道を最短距離の川沿いに移した。鹿野川に船運が開かれ、船着き場に隣接したので物資や人々の交流が盛んで、沼津の中心的な役割を果たした。

② 沼津城が再建後も東海道は移せず、本丸近くあたかも城の中を通過するかのようであった。

③ 狩野川は三枚橋城時代の外堀。沼津城時代も戦時の外堀を想定している。

④ 武田勝頼三枚橋城時代の海軍軍港。江戸時代は狩野川と相模湾を結ぶ拠点港として栄えた。

5）　兵学校碑＝２の丸殿舎、兵学校跡は大通りと一大商店街に変貌

① 徳川宗家家達静岡藩70万石＝慶応４年５月明治維新により徳川宗家は70万石の１大名家として静岡に移さる。沼津も徳川領となり、明治２年陸軍士官を養成するための沼津兵学校と付属小学校を設立。

② 西周を校長に、当時の日本を代表する学者や軍人を配し、わが国での欧米型新教育とされる。しかし明治４年廃藩置県で新政府管理下に、翌５年東京の陸軍兵学寮と合併、消滅している。

③ その間わずか３年に過ぎなかったが多くのエリートが集まり、後に出身者の多くが各分野で活躍し、日本の近代化に貢献した。

④ 歴代城主が居住した沼津城２の丸殿舎と兵学校跡＝さんさん通りが縦断、商店街に。

⑤ 兵学校碑は兵学校から道路（元は水濠）１本を隔てた３の丸、城岡神社の一隅に佇む。「沼津兵学校記念碑」碑文は楷書だが漢文で難解、明治27年９月中根淑撰、大川通久書を刻む。神社は元城の守り神で稲荷神社であったという。

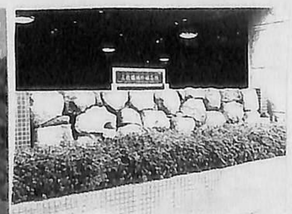
⑥ 再び本丸跡、中央公園横からバス乗車。新宿をめざす。

以上

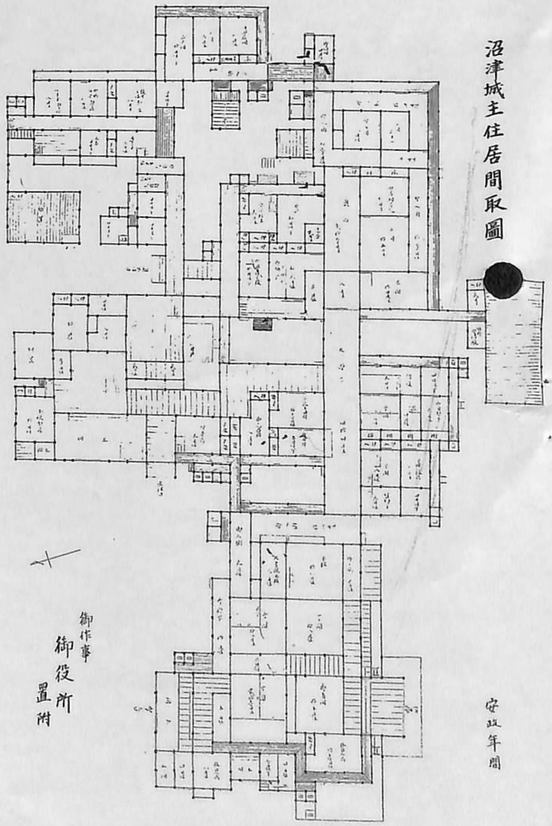
城岡神社

沼津兵学校碑

城中走る大通り



↑三枚橋城石垣



２の丸御殿（後の兵学校）